

# 英米文化学会会報

第 51 号

平成 14 年 5 月 15 日版



フォーラム 2002 : 英語力を問う

## 目次

**英米文化学会第 109 回例会開催のお知らせ**  
**例会発表要旨**  
**第 20 回大会開催のお知らせと研究発表者募集**  
**同大会の交通と宿泊予約の受付**  
**事務局からのお知らせ**

### 英米文化学会第 109 回例会開催のお知らせ

表記の会を下記の要領で開催します。万障お繰り合わせの上ご出席ください。

開催日：平成 14 年 6 月 8 日（土） 午後 3 時～午後 5 時 2 時半受付開始

場所：昭和女子大学大学一号館 7F 7132

当日会費：一般 500 円、学生 300 円

<懇親会>

場所：学内レストラン・プレリユード（人見記念講堂下）

時間：午後 5 時半より

会費：3000 円

<研究発表> 15:00 - 17:00

総合司会：木内泉（大妻女子大学）

1. スウィフトからオーウェルへの影響 『ガリバー旅行記』と『1984年』を中心に -

渡辺 浩（八戸大学）

司会 相良英明（鶴見大学）

2. 省略と追加による効果 - 古英語版『英国教会史』におけるBretwaldaについて -

宮崎ひろ美（日本工業大学）

司会 松谷明美（横浜市立大学）

3. ユダヤ系作家としてのPaul Auster - <消失から崩壊へ>の意味を探る -

君塚淳一（茨城大学）

司会 佐藤成男（玉川大学）

## 第109回例会研究発表レジメ

1. スウィフトからオーウェルへの影響 『ガリバー旅行記』と『1984年』を中心に

渡辺 浩（八戸大学）

オーウェルの愛読書に関しては『ガリバー旅行記』(Gulliver's Travels, 1726)がその筆頭にくることは間違いないと思われる。「政治と文学」("Politics vs. Literature: an Examination of Gulliver's Travels", 1946)という評論の中で、『ガリバー旅行記』と自分自身との関係を紹介しながら、オーウェルは独特の政治と文学の捉え方を展開しているが、そこには政治論以上に彼の文学的理想や本音が見え隠れしている。そうした精神的な部分を基調に、最終的にオーウェルがスウィフトに対して抱いていた畏敬の念、また逆に矛盾を感じていた部分等も考察しながら、全体的にオーウェルの最後の大作『1984年』の中に見られるスウィフトからの影響を考えてみたい。

2. 省略と追加による効果 古英語版『英国教会史』におけるBretwaldaについて -

宮崎ひろ美（日本工業大学）

ビードの『英国教会史』は、アルフレッド大王時代にラテン語から古英語に翻訳された。古英語版ではラテン語版に存在した書簡などが大幅に省略されているが、これは翻訳者が「キリスト教の歴史」よりも、「民族の歴史」を重視した結果と考えられる。当時のイギリスはヴァイキングから激しい攻撃を受けていた。外敵からの侵攻が続くなか、国民はアルフレッド大王に勝利の期待を寄せていただろう。このような状況下では民族意識が高まる傾向があるが、その中でも最大の関心事はBretwalda (ruler of Britain) についてであったと考えられる。本発表では、ラテン語版と古英語版のBretwaldaに関する記述を比較・検証し、翻訳者が求めたBretwalda像を探りたい。

3. 「ユダヤ系作家としてのPaul Auster <消失から崩壊へ>の意味を探る

君塚淳一（茨城大学）

Austerのこれまであまり評価されることのなかったLeviathan(1992)に焦点を当て、彼をユダヤ系作家という観点から見直し、新たにこの作品に価値を見出したい。The Invention of Solitude(1982), The New York Trilogy(1987)などから始まるAusterの主人公に見られる<消失>ではあるが、今回はこのLeviathanにおける<崩壊>（「自由の女神」のレプリカ爆破や主人公の爆死）の意味を、作品に散りばめられた「ユダヤ系アメリカ人の移民としての歴史」と結びつけ、まずその重要性を指摘したい。その後、それが作品をとおして作家のアイデンティティ探求とどう関わるかを他の作品にも触れながら論じていくことにする。

## 英米文化学会第20回大会のお知らせ

開催日：平成14年9月6日（金）、7日（土）

場 所：函館大学

上記大会の研究発表者を募集いたしますので、会員の皆様には振るってお申込の程お願いいたします。研究発表希望の先生は、研究発表題名と400字程度の発表要旨、そしてご氏名、ご所属（勤務先）を明記の上、封書でお申込みください。発表要旨はできればフロッピーをご同封ください。

申し込み期限は5月31日までです。

発表申込先：大会担当理事 曾村 充利

〒165 - 0032 中野区鷺宮4 - 25 - 12

## 事務局からのお知らせ

### 函館大会の交通機関と宿泊が決まりました

以下の条件で、学会として予約致しましたので、ご検討ください。

往路 9月6日(金) 羽田発07時55分 JAL541便 (函館着09時15分)

復路 9月8日(日) 函館発14時40分 JAL544便 (羽田着16時00分)

宿泊：アクアガーデンホテル(シングルのみ、食事なし)2泊 tel:0138-23-2200

JR函館駅徒歩3分、朝市のすぐそばです。なお、ホテルとの直接交渉はご遠慮願います。

費用：50,550円(航空機とホテルのセット)

ちなみに、片道の普通航空運賃は26,500円です。

ご予約は同封の郵便振替用紙にて、7月31日までに50,550円をお振込ください。日程の詳細は、後日、参加者にお知らせ致します。なお、恐縮ですが、飛行機の搭乗者名簿作成のため、通信欄に年齢の数字をご記入願います(25歳の方は25とお書きください)。ご不明な点がありましたら、財務担当の大東までお寄せ頂ければ幸いです。また、ホテルの宿泊だけをご希望の方はご相談ください。

E-mail: daito@human.ac.jp

Tel: 03-5399-3395

ご予約のキャンセルは速やかにお知らせください。旅行代理店との協定により8月16日以降はキャンセル料が発生致します。

### 会計からのお願い

学会費(5,000円)の納入については、同封の郵便振替用紙をご利用ください。なお、振替用紙は全員に同封致しておりますので、すでに納入済みの方は大会費等の振込等にご利用ください。ご不明な点がございましたら、財務担当の大東までお問い合わせ下さい。

口座番号：00160-7-611777

加入者名：英米文化学会

### 訂正

『英米文化』32号におきまして、中道英美子氏の執筆者紹介の項目に誤りがありましたので、お詫びし訂正いたします。

(誤) 同志社大学大学院アメリカ研究学科課程(後期)在学。

(正) 同志社大学大学院アメリカ研究科博士課程(後期)在学。

## 会員の動き

### 【新入会員】

省略

### 【住所変更(新住所)】

省略

## 【その他（地番変更）】

- \* 住所などに変更のある場合は  
渉外担当吉田（[tyoshida@cc.teu.ac.jp](mailto:tyoshida@cc.teu.ac.jp)）までご連絡ください。



英米文化学会会報 第51号 編集/発行：英米文化学会  
編集責任者：石山伊佐夫（広報担当）  
〒224-0028 横浜市都筑区大榎西3-3-1001 045-592-6570

年会費等振込先：郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777  
問い合わせ先 英米文化学会事務局 佐藤治夫 03-3219-8160 ファックス 03-5204-8787  
E-mail: [shakey23@tky.3web.ne.jp](mailto:shakey23@tky.3web.ne.jp) 学会ホームページ <http://www.osk.3web.ne.jp/~shakey23/indexj.html>